

栃木	都道府県	国立・公立・私立	(フリガナ)
学校名	J小学校	担当者氏名	K先生

実践例1 対象 2年生 特設単元 指導時期 3月

年度末に分数と図形についての素地感覚を養うねらいとして学習を行った。初めて見るパターンブロックであったが、戸惑いもなくすぐに慣れ、幼稚園時代に戻ったかのように大変楽しく活動できた。

① 六角形を作る

(参考:「パターンブロックで創る楽しい算数授業 Part 1」p55)

黄色のブロックと同じ大きさの六角形の形を、黄色のブロックに重ねて置く方法で作らせた。2年生であるためか、難なく多くの種類を作ることができた。



今年度より、「1を分けて」という名で「2分の1」、「4分の1」などの分数の基礎を学習しているので、「緑は黄色の何分の1ですか?」のように問い、その学習につなげた。

② 三角形を作る (参考: part 1 p88)

書籍のワークシートを使用して作らせた。これもわりとすんなり多くの種類を作れて楽しめた。初めから黄色のブロックを置こうとした子、さすがである。①の活動でわかったことを応用した

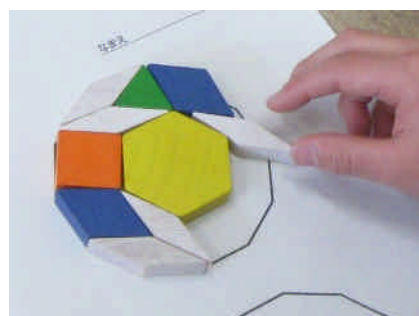


かもしれないが、そうだとしたら見事である。

③ 正十二角形をしきつめる (参考: part 2 p203)

ワークシートを使用してそこに並べさせた。

「白いブロックを使うといいよ。」とアドバイスしたが、右の写真のようになかなか苦戦していた。すると、外周に沿って白ブロックを6個並べればいいことに気づく子が多くいたが、中央部分の並べ方に苦戦していた。その中、新鮮な発想でしきつめることができた児童が何人かいた。

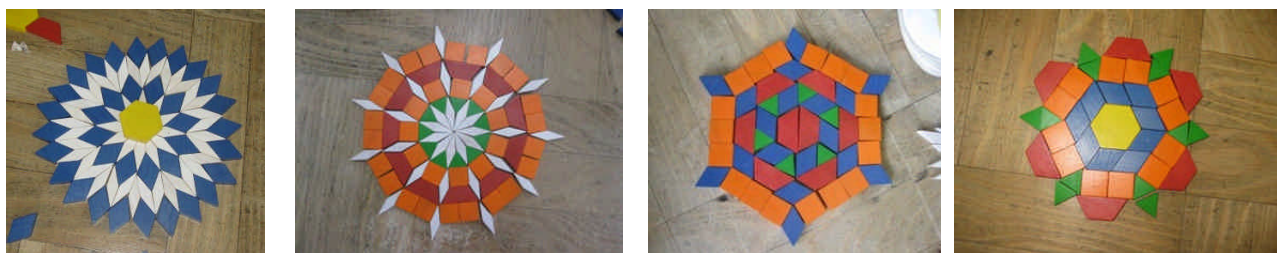


実のところ普段の算数の授業ではそれほど意欲が見られない児童なのだが、その子が「先生!」とうれしそうに呼ぶ表情は今まで見たことのないすてきな笑顔だった。



④ もよう作り

自由にもようを作らせた。時間は短かったが友だちと協力しながら多くのきれいな形を作り上げた。



⑤ 児童の反応など

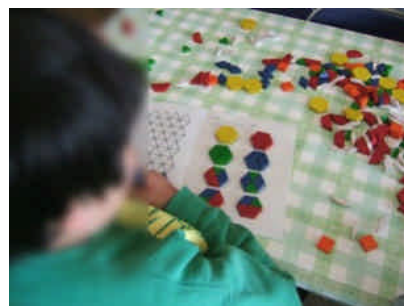
ふだんの算数の学習では、かけ算九九を覚えるのが苦手であり、まだに全部を言えない子や、計算がなかなか正確にできない子が、嬉々として取り組み、「先生、写真撮って」と呼ぶのが印象的であった。模様作りという「遊び」を通して児童は知らず知らずのうちに図形の性質や神秘さを知ることができたと思う。パターンブロックはその意味で有効な教具であると思う。

実践例2 特別支援学級児童 指導時期 2月～3月

20箱うち4箱だけパターンブロックを特別支援学級用に置いたが、すぐ大人気となり、時間があればこれで遊んでいた。休み時間はドミノ倒しをしたり、積み上げて楽しむことばかりであるが、そうやって扱いながら徐々にパターンブロックの特徴をつかんでいった。

① 六角形を作る

ワークシートを用いて黄色のブロックと同じ形を作らせた。まず黄色のブロックを置かせ、次に赤だけを使って同じ形ができるか考えさせた。できたので緑だけ、青だけで作らせた後、オレンジだけや白だけでもできるか試させた。その後赤・青・緑の組み合わせで作らせた。この児童にとってこの作業はそれほど難しくなく取り組むことができた。



② カメの絵やウサギの絵のしきつめ

カメやウサギの形のしきつめをさせた。

1度目はただしきつめるだけだったが、一度できると2度目は色やもようにこだわって並べた。右の写真は6年生の、コミュニケーションをとるのが不得手な女の子がカメの形を作ったところであるが、おなかに黄色のブロックを使ってできたところがうれしかったらしく、「先生、先生」としきりにアピールしていた。



③ その他

一番障害の重い児童には、色の学習や数を数えさせるために用いた。色と形がそれぞれ異なっているのでこうした活動には便利であった。